

在宅医療地域ケア通信

在宅

医療と介護の今

今号の主な内容

- 地域で精神疾患とどう向き合うか（インタビュー） 1面～3面
- 平成29年度第1回地域ケア会議開催状況（一覧表） 3面
- 杉並区の「フレイル予防」活動スタート 4面

■ 地域で精神疾患とどう向き合うか

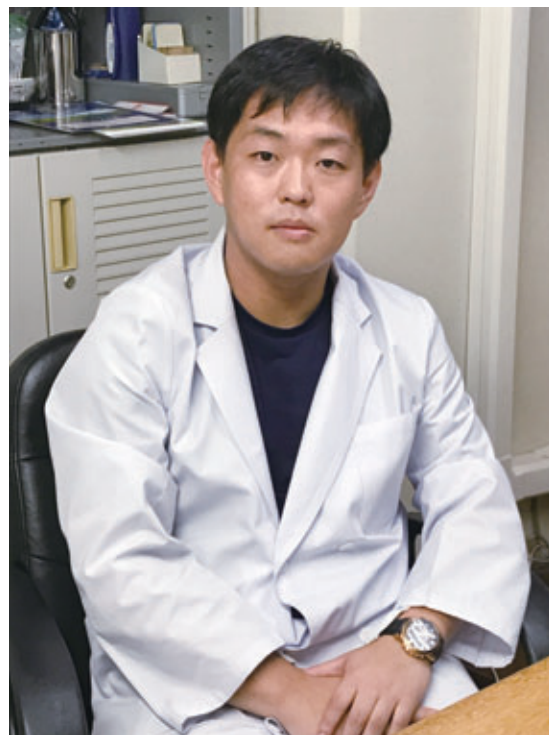
今年度の在宅医療地域ケア会議は、各圏域の共通テーマを「介護者やキーパーソンに精神障害や発達障害などがある場合の支援について」としました。認知症高齢者だけでなく精神障害者なども地域での支援が欠かせませんが、病気に対する地域住民の知識、対応の仕方など学ぶべきことは少なくありません。そこで、区内精神科クリニックのひとつである「野崎クリニック」（阿佐谷南3丁目）の野崎和博医師に精神科医療について、看護師の山中恵子さんに訪問看護についてそれぞれお話を聞きました。

● 杉並区内の精神科医療の実情は

野崎：杉並区には精神科の単科（専門）病院がありません。精神疾患は急性期（妄想や幻聴が激しくなったり、暴力的になったりして社会生活に支障を来している時期）には入院して治療し、安定したら退院するのが一般的です。地元で単科病院がないので入院治療は近隣の三鷹市とか武蔵野市などの病院にお願いすることになります。退院後は地元の精神科クリニックに通院し、服薬で在宅療養しますが、医者だけでなく訪問看護や介護の力を借りることが必要になります。

— 診療されている疾患の種類は

野崎：最も多いのが統合失調症、次いでそううつ病、うつ病、神経症でしょうか。統合失調症の患者さんは元々生活する力はあるのですが、症状が進むと身の回りのことを一人で行うのが難しくなる場合があり、訪問看護・介護が必要です。ただ、新しいタイプの薬が開発されたことで、病状は軽症化してきています。また国は病院を減らす方向に動いており、入院してきちんと治療し、自宅に戻る患



野崎和博医師

者さんが増えています。ですから、地域の中で生活しながら治療を継続するという患者さんは増える可能性があります。厚生労働省のデータでは、うつ病は増えていますが、統合失調症患者の数は全国で80万人ぐらいと横ばいです。

● 発達障害は病気なのか

野崎：発達障害という病気の名前が付くかつかないかは程度の問題です。発達障害で有名な自閉症や最近話題のADHD（注意欠陥・多動性障害）は、誰もが幼少期から多少なりとも持ち合わせている性質。普通は学校や